

令和5年度 医療的ケア児に関する研修会

新生児医療・医療的ケア児の退院～入院までの支援の流れ・子どもの成長

令和5年11月7日

現状

- ・在胎23週で生まれる子どもたちも助けられるようになってきている。
- ・在胎34週～36週で生まれる子ども達に合併症が多い。

鹿児島では

- ・総合周産期母子医療センター → 鹿児島市立病院
- ・地域周産期母子医療センター
→ 今給黎総合病院・鹿児島大学病院・県立鹿屋医療センター・済生会川内病院・県立大島病院
ドクターカー・ドクターヘリの運用。新幹線の活用などもある。

子ども達の課題

まずは胎外環境への適応

呼吸 在胎34週頃に肺の成熟。サーファクタントにより助けられる子が増えた

嚥下 在胎28週頃に嚥下が可能になる。腸が成熟して栄養の吸収が出来る。

離乳食は生後6ヵ月頃～脳の神経細胞の成長に脂質が必要（母乳）。1歳頃からは筋肉や臓器の発達の為にたんぱく質が必要（母乳のみでは不十分）。手づかみ食での食材の学習も必要

愛着形成

生まれて2年目までに形成される特別な人との愛着関係（多くは母子）。他者とのコミュニケーションの第一歩

虐待

反応性愛着障害と発達障害

世話をする人がいない場合

視線を合わせる事ができない・甘えたいけど素直に甘えられない・周囲に関心がないように見える（反応性愛着障害・抑制型）⇒ASDとの区別が困難

世話をする人が不適切な対応をする

過度の社交性・多動（反応性愛着障害・脱抑制型）⇒ADHDとの区別が困難

※世代間連鎖

被虐待者の1/3は虐待者にならない

1/3は社会的ストレスなどにより可能性がある

←ここを減らす

1/3は虐待者になる

親も子も支援をする必要がある

子どもの発達には個人差があるので年齢ではなく成長発達段階を理解した支援が必要。